

わたしのノウハウ伝授します!

エキスパート流ステロイドの使い方、
効果と副作用のバランスを見極める

2026年

4月10日(金)

日時

14:30~15:30

会場

Room 6

福岡国際会議場 5F 501

座長

中尾 新太郎 先生 順天堂大学大学院医学研究科 眼科学 主任教授

糖尿病黄斑浮腫 (DME) とぶどう膜炎の治療は近年急速に進歩し、新たな治療法が開発されていますが、ステロイドは今なお重要な治療薬として使われています。

DMEの治療では、主に抗VEGF薬による治療抵抗例や脳心血管系疾患のリスクがある症例などにステロイドを眼局所注射で、非感染性ぶどう膜炎の治療では、発症初期や炎症の急性期にステロイドの点眼、眼局所注射、全身投与など様々な投与方法で用いられています。

一方、ステロイドには眼圧上昇、白内障、感染症、血糖値上昇、骨粗鬆症など種々の副作用があり、治療の障害となることも少なくありません。

そこで本セミナーでは、DMEとぶどう膜炎治療のそれぞれのエキスパートから、ステロイドの効果と副作用のバランスを見極めた使い方のコツを解説していただきます。

お二人の先生から熟練の技を伝授していただきますので、多くの先生方のご参加をお待ちしております。

講演
1ぶどう膜炎診療の悩みどころ：
病態理解 × ステロイド治療 × 個別化戦略

演者

楠原 仙太郎 先生 神戸大学大学院医学研究科
外科系講座眼科学分野 講師講演
2糖尿病黄斑浮腫：
ステロイドの特性を生かした治療法を探る

演者

高村 佳弘 先生 福井大学 眼科学教室 准教授



わたしのノウハウ伝授します!

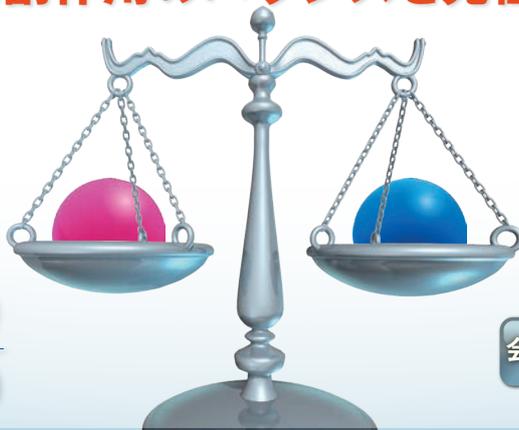
エキスパート流ステロイドの使い方、
効果と副作用のバランスを見極める

2026年

4月10日(金)

日時

14:30~15:30



Room 6

会場

福岡国際会議場 5F 501

座長

中尾 新太郎 先生 順天堂大学大学院医学研究科 眼科学 主任教授

【略歴】

1998年 鹿児島大学医学部 卒業	2017年 九州大学病院眼科 講師
九州大学医学部眼科学教室 入局	2020年 国立病院機構九州医療センター眼科 医長
2000年 九州大学大学院医学研究院(医化学分野)	2022年 九州大学大学院医学研究院眼科学分野
2004年 同修了 博士(医学)取得	臨床准教授
2006年 米国Massachusetts Eye & Ear Infirmary 留学	2022年 順天堂大学大学院医学研究科眼科学 主任教授
2013年 九州大学病院眼科 助教	順天堂大学医学部眼科学講座 主任教授(併任)

講演
1ぶどう膜炎診療の悩みどころ：
病態理解 × ステロイド治療 × 個別化戦略

演者

楠原 仙太郎 先生 神戸大学大学院医学研究科 外科系講座眼科学分野 講師

【略歴】

1998年 神戸大学医学部卒業	2012年 神戸大学若手教員長期海外派遣制度により
2004年 理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター (幹細胞研究グループ) リサーチ・アソシエイト	ロンドン大学に長期海外出張
2007年 兵庫県立尼崎病院 眼科医長	2014年 同 帰国
2008年 神戸大学大学院医学研究科	2016年 神戸大学医学部附属病院 眼科 講師
外科系講座眼科学分野 助教	2018年 神戸大学大学院医学研究科
	外科系講座眼科学分野 講師



ぶどう膜炎診療においてステロイドは依然として治療の中核を担う一方で、その効果と副作用のバランスをいかに取るかは、臨床医にとって最も悩ましい課題の一つである。実臨床では、疾患の特徴や炎症活動性、急性期・慢性期といった病態の違いを的確に理解したうえで、ステロイド治療をどのように組み立て、どこで踏みとどまり、いつ次の治療選択肢へ移行すべきかという判断の軸が求められる。そのためには、ステロイドの全身投与および局所投与それぞれの長所と短所を正しく理解し、炎症再燃と薬剤副作用とのリスクバランスに加え、背景にある全身疾患や患者のライフプランを踏まえた大局的視点に基づく個別化治療の考え方を常に念頭に置く必要がある。

本講演では、患者利益を総合的に最大化する治療戦略を追求する過程で、私自身が一つの境地としてたどり着いた考え方—すなわち、「ステロイドの有益な側面を選択的に活用する」ことを目指した治療の工夫とその実践について紹介したい。

講演
2糖尿病黄斑浮腫：
ステロイドの特性を生かした治療法を探る

演者

高村 佳弘 先生 福井大学 眼科学教室 准教授

【略歴】

1996年 福井医科大学 卒業	2009年 福井大学 眼科 講師
1996年 福井医科大学 助手	2012年 同 眼科 准教授
2003年 米国ネブラスカ大学	



糖尿病黄斑浮腫 (diabetic macular edema: DME) に対しては、抗 VEGF 治療が第一選択であるが、全ての DME 症例において満足な結果が得られる訳ではない。また高額な薬であることによる患者への経済的負担も問題である。ステロイドであるトリアムシノロンアセトニド (TA) は強い抗炎症作用があり、浮腫改善効果も抗 VEGF 治療と比較して決して引けを取らない。また患者の経済的負担も少ない。硝子体内投与 (IVTA)、テノン嚢下投与 (STTA) のいずれにおいても DME に対して適応が取れている。一方で眼圧上昇などの合併症がネックとなっているが、それぞれの特性を生かした使い方をすることで、ステロイド療法の有効性を引き出すことが可能である。また近年では DME 症例において、第 2 世代抗 VEGF 薬投与後の眼内炎に対しても影響を与えることが報告されている¹⁾。

本セミナーを通して、ステロイドが DME 治療における有効な選択肢の一つとなり、より良い視力予後につながればと思う。